くらみ里山留学 かわら版

2024年1月発行

第9号

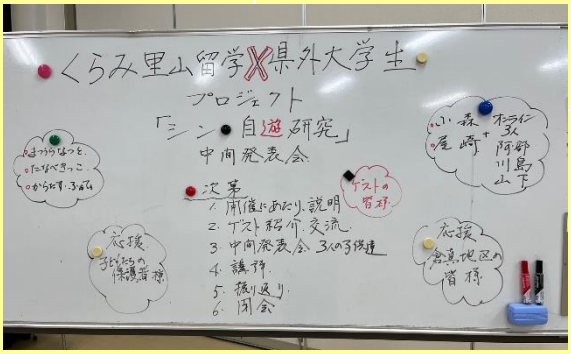
くらみ里山留学研究部会 かわら版編集部です！！
改めまして、新年明けましておめでとうございます。
旧年中は、地域の皆さまに支えられ、大変お世話になりました。本年も新鮮な情報を発信できるよう取り組んで参りますので、なにとぞよろしくお願いいたします。

かわら版編集部
掛川市倉真 3808-1
倉真地域生涯学習センター
倉真地区まちづくり協議会内
くらみ里山留学研究部会
電話:(0537)29-1252
メール:kurami@ace.ocn.ne.jp

シン・自遊研究（ジユーケンキュー） in 掛川市倉真

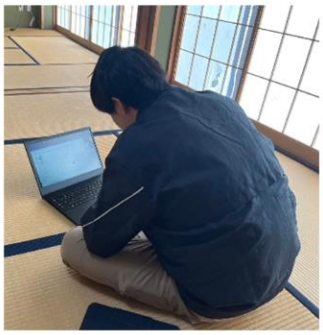
中間発表会 '23、11/18

「シン・自遊研究」ってなんだっけ？
子どもが好きなことを起点に、首都圏の大学生を含む県内外の大学生と倉真小の子どもが、プロジェクトを企画。約半年間、対面とオンラインのハイブリッドで伴走し、子どもの「やりたい！」にとことん向き合う「選べる学習プログラム」です。
かわら版８号に前段が載っているから見てね♪



8月のサマーキャンプで、子ども達の「好き」や「やりたい！」をリサーチに倉真入りした大学生。何人かの子ども達と触れ合い、３人が自分のプロジェクトを立ち上げました。動画編集プロジェクトや有名サッカー選手のドリブル解析、ミニチュアガーデン構想など、バラエティに富んだプロジェクトが動き出しました。３人の子ども達には、それぞれ担当の大学生が伴走、都合の良い時間を保護者と調整しながら、自宅にいながらオンラインでプロジェクトを進め、11月18日には中間発表会を開催するに至りました。
板倉校長先生はじめ、区長さんも鑑賞、静岡から小塙先生がゲストとして出席いただくなど、各方面から子ども達の取組を観覧に来てくれました。

大勢の大人に囲まれての発表。もし自分だったらド緊張で足がすくんじゃう…。
ところが…子ども達は、大衆の面前、臆することなく、堂々と発表！！
理路整然と説明する姿は、好きなことを追求する楽しさと自信で凛々しかったです。観衆陣からの質問に適格に返答できていました。
残り１か月で成果をまとめます。どんな報告が聞けるか楽しみです♪



大人顔負けのプレゼン力！

成果発表会 '24、2/12

興味あるかた、ぜひお越しください。

くらみ里山留学　ご家族に聞いてみた！！

令和５年度から倉真へ移り住んで１年になろうとしています。自分だけじゃなく、家族の意見も尊重して、新天地で生活を始めるということは、期待の反面多くの不安もあったでしょう。そんなご家族のお父さん、間野静雄さんにこれまでを振り返っていただきました。

間野静雄さん

お仕事が河川魚類研究家であることから、倉真リバートレッキングでは倉真川生物講師をしていただきました。

名古屋では高層マンションの13階に住み、近くの公園は禁止事項の看板だらけ、近くの川は汚くて危険。自宅前は車がビュンビュン走り、とても子どもだけでは遊びに行かせられない。そんな環境で小学校６年間を過ごすことが子どもにとっていいこととは思えず、悩んでいた。そんな時、倉真に「里山留学」という制度があるのを知った。バタバタと身辺整理をし、まだ寒い４月、いつ彼が「名古屋に帰りたい」と言い出すのか、ドキドキしながら倉真での生活が始まった。しかし１年間しかないと思うと夏が待ち遠しく、５月の連休には早々に倉真川で川遊び。初めは石を投げたりしてどうするか考えていたけど、そのうちズボンが濡れると服を着たままドボン、「魚がいた！」と大騒ぎ。６月の梅雨、大きな雨音と雷が怖くて布団をかぶって眠り、８月は待ち遠しかった夏休み。野球と水遊びですっかり日焼けして真っ黒に。「そらやれ！」と太鼓を叩き、山車を曳きまわした10月の秋祭りが終わる頃にはすっかり遠州弁に。

学童に行かない日は友だちがやってきて「今日はなにするだ？」と秘密会議。ケンカもしたけど「ずっと倉真にいろよ」と言ってくれる友達もできた。神社のイチョウがすっかり黄色くなった11月、恐る恐る「来年どうする？」と聞くと「倉真で野球のレギュラー選手になりたい」。ここに来た時の思いをまだ持ち続けている。それではと私もタマネギの苗を植え、シイタケ用の原木も切り倒した。「倉真に来て一番楽しそうなのはパパじゃないだ？」と言われ、そうかもなと思う。そういう彼も「ただいま」と言うとランドセルを放り投げ、「夕焼け小焼け」が流れるまで帰ってこない。倉真の里山に住んで８か月、多くの人たちに温かく見守られ、都会ではありえなかったことを経験し、成長したと感じている。

くらみの里山 地域体験会 開催しました

12月９日、地域体験会を開催しました。この日は、６年生による大門松作りが行われており、小学校や地域の雰囲気がよくわかる一日。東京から訪れた小学校５年生の娘さんとお母さんは、大門作りを見学した後、ミニ門松作りや綿摘み体験、初の自然薯ﾗﾝﾁなど、倉真を堪能しました。

600人という超マンモス校からの倉真小見学。サイズ感や距離感に驚きを隠せない様子。運動場では遊ぶスペースがなくて立ち話をして休み時間が終わるけど、ここでは、ボール投げしても大丈夫だね！と驚きは好印象のようでした。「ねぇねぇ、東京の学校って勉強難しい？」倉真の子は、都会の学校に興味津々です。「そんなことないよー」とすっかり意気投合。里山留学生となるかどうかはわかりませんが、彼女とそのご家族の選択を温かく見守りたいと思います。

日頃の感謝を込めて…倉真お野菜便をプレゼント♪

東京から**プロボノ**という形で、くらみ里山留学に取り組んでくれている**山本圭輔さん**ご家族に、ささやかなクリスマスプレゼントを送りました。私たちにできることは、新鮮な地場産品を送ることくらいしかできないのですが、大変喜んでくれたようです。

１月～３月のスケジュール

１月18日（木）秦野市視察対応
２月11～12日（日・月祝）
「シン・自遊研究」成果発表会
２月29日（木）花まる学習塾視察対応
３月初旬　倉真小見学希望対応予定
３月中下旬　研究部会開催予定

くらみ里山留学